

## 在特会の論理(15)

### ——「元々右だった」O氏の場合——

樋口直人（徳島大学総合科学部）

#### 1. 経緯

筆者は2011年から現在に至るまで、日本の排外主義運動の活動家に対する聞き取りを実施してきた。筆者自身は、石原慎太郎を「日本版極右」として捉え、その支持基盤に関心を持って量的な調査を実施したこともある（松谷ほか2006）。2009年にオランダで在外研究を行った時も、主たる研究課題は西欧極右と日本の比較であった。その意味で、排外主義に対する関心は比較的早い段階からあったが、排外主義運動に対する質的調査をするとは自分でも考えていなかった。それを変えたのは、2009年に台頭した在日特権を許さない市民の会（通称在特会）の直接行動であり、筆者が2000年から研究してきた外国人参政権への対抗運動が発生したことであった<sup>1)</sup>。

これらを受けて、筆者は重い腰を上げて活動家に対する聞き取り調査を行うようになり、その記録を公表可能な範囲内で資料として発表している（樋口2012a, b, c, d, e）。本稿は、そのうち2011年12月21日にO氏（50代男性）に対して実施した聞き取りを再構成したものである。

#### 2. 政治に対する関心

いろいろな政治に、ニュースなりに関心持ってたし。政治活動は何もしてなかったですけどね。選挙には当然行っていました。（投票先は）大体自民党ですね、僕は。保守がね、それぐらいしかなかったんですよ。共産党なんか入れるはずないし、社会党もちろんダメだし、まあ自民でしたね。保守的な感じでね。学生時代はそうでも（それほど保守的でも）なかったんですけどね。どちらかというと学生運動の——ちょっと先輩みたいな連中がやってた

---

1) これについては、樋口（2001, 2011）を参照。

りとかしてたんで、一応マルクス・レーニンとかその辺もやってたっていうか、読んだ程度。でも、いろいろ突き詰めて考えたら日本にはそぐわないなと思わなかったんで。(大学の専門は) 電子工学なんで。

多分そう(もともと右寄り)なんでしょうね。やっぱり左の考えもわかるけど、何かしっくりこないんで。結局それは、自分の責任を他人にまわしてだけで、誰かのせいにしてる、というのが左の考えだから。自分が仕事せんでもお金もらえんとか、そういうのがあるんですよ、左の考えは。

(在特会の入る前後でイデオロギーは) 変わってないですね。自民党を保守かと言われたら、現実には半分くらいは保守、半分くらいはおかしなやつがいるんで…。ちゃんとしたらもっと保守政党があれば、そっちに入りたいと思ってますけどね、特に在特会に入ってから。(自民党は) 民主党よりはましかという程度ですけどね。

### 3. 外国人との接点、排外主義に至る認識

朝鮮人ですね。遊んでましたよ、普通に。友達として。仕事関係でインド人とか、アメリカ人とドイツ人と、韓国人もいましたし。何もあれ(問題)もないですね、仕事では。中国人もいましたね。(外国人との接触と活動とは) 何も関係ないです。(それ以前は) 北朝鮮はおかしいな、とかそんなのは思っていましたけど。別にねえ、どうのこうのというのはなかったですね。

在特会に関していえば、韓国人に利権——在日特権というかね、在日の特権があまりにもきつくなってきて、平成に特に変わってからどんどんひどくなってきて、どちらかというと日本人が差別されているんじゃないか。河野談話とかあの辺ですよ。(特に行動は) してないですね。日本ってどこまで土下座外交するのか、ヘタレというか情けない国だなと思ってましたけどね。従軍慰安婦の問題とか、南京大虐殺もその辺からでしょ、話が出てきたのが。そういう捏造があまりにも多すぎるなど。いろいろ聞いている話と違うから。これは何かそういう勢力が動いているんだろうなと思って。そのくらい、在日関係がひどくなってきて、ちょっとおかしいなあと思っているときにこの運動を知って入った。

#### 4. 在特会との接点

3年くらい前ですかね。(民主党が政権を)取るんじゃないかと思った頃ですね。インターネットで——ネットは昔から使ってます。(アクセスしたのは)偶然ですね。偶然。Youtube の上のほうでばくばくやってるでしょ(リンクが出ているという意)。それで出てたから。Youtube とか見てて、ちょっと「何だろう、これは、何を言ってるんだろう」。在特会とか主権回復を目指す会とか、あの辺がやってたんです。こんな運動してるグループがあるんだな……。 (それまで) おかしいなとは思ってたけど、それ以上に追求するところまではしてなかったんで。見るようになって、「そうかそうか」って。

僕らの世代というのは、朝鮮人という言葉すらしゃべったらいかん、という時代だったんですよ。朝鮮人と言うだけでボコボコにされるぞ、だからちょっと抑えないといけないような時代だったんで。まだね、戦後暴れまわっていたことを知ってる世代が沢山いたんで、その僕らは下の方(の世代)だったんで、「朝鮮人というたらあかん、朝鮮人と言ったらどつかれるぞ」というコメントを聞いていて。だから見て見ぬふりみたいな。タブーだったんですよ。それが堂々と「朝鮮人出て行け」と言っていると。「何だよ、この運動体は」と思って見るようになったのがきっかけですね。堂々と発言して、抗議して——「朝鮮人」って言っていいんだ。それはそうだ、フランス人をフランス人と言っていていいのに、朝鮮人を朝鮮人と言っていていけないことはない。

日本にある民団とか朝鮮総連、それは本国の指令によって動いているわけですから、金は全部そっちから出ているんですよ——ということが、日本においてずっと起こってきたんですよ。で、帰化もしないわけで、日本に住んでいるのに……。なんで在日がまだいるんだろう、何かおいしいものがあるからですよ。日本に住んでいて日本に帰化すれば、日本国民と同じようにすべて日本人と同じ権利が与えられる。なんで帰化しないのかなって。在日であるメリットって何かあると思ったら、いろいろ特権があったって。

(前から) 薄々は感じてました。税金払ってないよ、とか。調べていったらいろいろ……。だから、結局、日本人にない特権があるわけですね。これはおかしいや。名前もいっぱい使えるし。口座でもいくらでもいけるし。免許証も通名でいけるし、通名で名前を何個でも持てるし、税金もまともに払っ

てない。生活保護はものすごい。人口比にして日本の5倍6倍ね、もっとひどい数だから。4人に1人が生活保護ですからね。生活保護にたかって。で、そんなことがいっぱい出てくるんですよ、次々と。これはまずいと思って。

とりあえず会員登録して。地元であったのに出るようになりまして、そのうち支部作りたいというから、お願いされたんでやってみた感じですね。(参加したのは、入会してから)3ヶ月、それくらいですかね。それまで参加しなかったね。その頃、告知とかあんまりなかったんですよ。で、一番大きな告知だったのが地元のデモで、外国人参政権反対デモ。それに行くしかないね、と思って。それが最初ですね。2年前の12月だったかな、実際参加したのは。(参加に対する抵抗感)はなかったですね。まあ、何百人のデモでいるので、別にマイク持つわけでもないし。できるだけたくさん見てくださいというので、この際、と。元々だから、考え方が右だったんですね。だから胡散臭いと思わなかったですね。

やっぱり意思を示さない——今まで日本っておとなしかったから、世界からみても。それが美徳とされてくる。慎ましかで大人しい日本人、それではもう通用しないな。昔はそれでよかったけれども。これだけ外国に攻め込まれていて——実際、向こうが声が大きいわけですよ。で、自分らの要求ずっと通してきてた。日本が言うなりになってたら、どんどんどんどん侵略されてくる、ますますね。黙ってるより声出す。下がって下がって、もうこれ以上はないと思ったんで行ったんです。

(その後)結構出ましたね、続けてね。「次、何々ありますからね」、とそこで言われるから「ああ、じゃあ行ってみようか」って。お誘いがずっと出たんで。一参加者でよかったんですけど、どうしても地元でやってくださいというお声がかかったから、「じゃあやりましょうか」って。各都道府県に支部を作りたいということなんで。(家族に止められることは)ないです。そういう話もしないです。家族は何も思っていないですね。(胸に着けているバッジも)拉致被害者を帰せというバッジ。これは維新政党・新風が最初に作ったバッジなんです。結成した時に。どさっとあったんで、1つどうぞっていう感じ。飲みに行く時もつけていきますし。(救う会には)入ってないです。日本人の意思として「同胞を帰せ」という。本当は日本人全員つけ

ないといけないんです。

(活動は公に)してます。(周囲の人で) 離れていったのもいますよ。言うことはわかるけども、嫌なんでしょうね、そういうのが嫌という人もいます。(それは) しょうがないですね。仕方ないですよ。まあ、遊ぶ間がなくなったから、人付き合いは減りましたね。むしろ今の方が周りの人が減ってるんですよ、遊び相手が。昔はもっとにぎやかに遊んでましたよ。一緒にその(運動の) 仲間で活動行ったりとか、そっちの時間が増えましたね。変わりましたね、余暇の過ごし方が。こういう運動やってると、自分の遊びの時間って減りますんで。運動がんばるから。多い時は1週間ぶっ通しとかあります。(仕事に支障は) でないことはないですけどね。多少は目をつぶらなきゃならないですから、それはそれで…。逆にね、何も思っていない人と話してるとかなりずれがあるんですよ。話してて、相手がわからない人が多いんで——政治に興味がない人は特に。政治活動なんで、そんな話もしたら——政治の話したら——「うーん」とピンと返ってこないとしんどいですよね。そういう話したら。(運動の人という方が) 自分が楽ですよ。

(この数年で運動を始めたのは) やっぱり、どんどんどんどん(「彼らの攻撃」が) 来ていて、当たってしまったんでしょうね。彼らは、やりすぎたわけですよ。後ろのほうで言うてくらいだったら、多分そのままだけど、どんどんどんどん前(に) 進んできて僕に当たってしまったんですよ。それに、そんなになかったですよ、市民活動が。市民活動いったら左翼系ばかりですよ。保守系の市民活動なんかない。右翼は違うだろうと思うし。「日本民族を」というのはいいけど、街宣車に乗って——それは違うだろうと。

(在特会で活動しているのは) 最初に見たのが在特会の動画だったんで。だから中身は救う会もやってるし、教科書も行ってるし、やってることは広範囲なんですよ。だから、国家主権の問題であるとか、いろんな問題——教科書問題にしても拉致問題にしても、全部動いてますんで。今は全国で自治条例が作られて、その中で住民投票条例が各地で作られて。それは外国人参政権の通りじゃないか。だから今、それを阻止するためにあっちこっちにまわってるんです。

警察関係とか公安調査庁とか、その辺との付き合いは増えましたね。普通に参加しているだけなら、どっかにいって話することないけど。(それは)嫌ではないですね。結構同じ考えの人が多くて、話してみると。また、警察に対する対応と公安調査庁に対する対応とは少し違いますけどね。

#### 4. 運動を継続させるもの

日本人が目覚めないからじゃないですか。目覚めない人があまりに多すぎる。ぱっと「あなた、何民族ですか」って聞かれて、大和民族って即答するよりも、まず民族という言葉聞いた時点で「え？」と思う人が多いと思うんです。それだけ意識レベルが、GHQ 政策が浸透して、浸透しすぎて、ほぼアメリカ人がびっくりするくらい浸透しすぎて。今そういう教育ですべて育ってきているし。ますますですよ。自分はどこの国、国境どこにあるかもわからん、対馬ってどこかって知らん、竹島知らんとかいう奴もいるし。尖閣列島なんかね、大分ニュースになったからあれですけど、国境がわからんような人間もいくらでもいるんで。国家主権とは何か、わかってない人もいますからね。

本当に、「ほっとけん」みたいな。ほっといたらますます——特に××（応援に行っている県名）は韓国民団がなんだかんだ行政に対して言ってきて。日本のことは日本人がまずやろうというのがあるんで、その兆しを止めるというかね。日本が終わるよりも——日本でなくなるのと、自分の仕事だったら、日本のほうを優先させてもらったら。滅私奉公の世界です。自分のためには何もならんけど、大きな眼で見たら日本国のためにいいんじゃないか、というのが基本的な考え方。自分らは捨石になるつもりなんで、どっちにしても。次の世代が良くなっていけばいいな、というために。僕らの世代は多分変わらないだろうから。

（参加してみて、思っていたこととの違いは）ありますね。結構いろんな人が参加してるんで、この人はちょっとなあ、という人はいますよ、中には。本当に運動しに来ているんだろうか、とか。運動外の目的、彼女探しに来てるのかな、みたいな。

結構ね、運動体としてはレベルが上がってるかな、と思うんですよ。賛成

している人も増えてきてるし、初めは「わー」と声を上げているだけでしたが、そのうち行政交渉であったり、実際いろいろ変わってきているところもあるんで、進歩してるなとは思いますがね。結構あちこちに行ってますね、行政に——市役所と県庁とか。

少しずつではあるが、世間の雰囲気が変わってきてるなというのは感じますね。始めた頃に比べたら。やっтерることに対する支持者が、初め少なかったわけなんです。今は結構若い人とかも応援してるし。応援者が増えましたね。それで、それだけの成果は出てますんでね。結構普通にやったら、拍手してくれるじいちゃんばあちゃんもいますしね。目の前で。動画でもコメントは増えてるなと思いますけどね。(チーム関西の事件で) 一時問題があって離れた人はいるんですけど、結果的にその時よりも増えてますんで。

今年夏くらいか、花王デモとかフジテレビデモとか、あの辺から空気がまた一つ変わりました。本当の一般の人がずっと参加するようになったから。(その影響で在特会も) 増えました増えました。あるデモだと、8割の人が知りませんもの。初めて見るな、という顔の人がどんどん増えていった。

## 5. 敵対性をめぐって

(在日コリアンを敵手とするのは) 相手が全部朝鮮なんです。拉致問題にしても教科書問題にしても、全部在日がいろいろ言ってくる。今中国だけどその前から朝鮮が。結局、中国の手先。あいつらは賢いから、直接やらず朝鮮使っていろいろやる形で、いろいろ政治的なことを様子見ながら。様子を見てるんですよ。朝鮮人使って。だから、どこ行っても当たるのが朝鮮人なんです、相手が。だから問題の相手は1つなんで。

(外国人参政権について知ったのは) 3年くらい前ですかね。民主党が本当に政権取るんじゃないかという危機感があった。少なくともそれまではある程度は自民党が良識的な人が多いから止まっていたけど、民主党が(政権)取ったら終わりだと思ったんで、動かないとしょうがないなと思ったところもある。それから「取ってしまった、はあ、どうなるのかな」って。でも何とか止まっていますけどね。

日本のことは日本人が決めねばいかんでしょう。日本はもともと島国でし

よ。ほぼ単一民族ですよ。で、その中でずっと育まれてきた伝統や歴史文化があるんです。外国だと侵略されて、こっちの民族、あっちの民族とあったんですね。そうして繰り返されてきた中で他民族と…という点、日本とは考え方が違います、もともと。で、あまりにも日本の周りは敵国が多い、朝鮮も中国もロシアも全部、日本侵略したままです。北方領土取ったまま、竹島取ったまま、北朝鮮…拉致したままですから。北朝鮮も韓国も同じですよ、同じ民族ですから。これが友好国ならいいですよ、外国人参政権を認めても。でも友好国ではないですよ。

(しかし敵手として) 大きいのは中国でしょうね。在日より大きいのはチャイナですね。奥に控えていますからね、チャイナが。前におるのは在日だけでも。目の前でちらちらしているのは在日ですけどね、奥に控えているのは中国なんで。それに合わせて民主党が移民 1000 万人、政策 INDEX2009 で移民 1000 万人とか言っていたんで…。移民 1000 万人受け入れるとは——今、中国は国策として人を追い出そうとしていますよね。人余り。特に人民解放軍…。残っていた人間、出てきた人間というのは仕事がないんですよ。その人間はどこ行くかという、海外に放り出される。日本は受け入れますよと言っているわけだから、そういうのがどんどん来るわけですよ。あいつら賢いのは、ある日突然戦わないかん、国家動員法ですから——7 月 1 日から施行されているでしょう、あの国では。戦わないといかんわけです。人間を、全部人民解放軍上がりというのをどんどん入れていったら、これはもうすぐやられます。そういう危機感を持って生活しなければいけない状況に、日本はなっている。(自分達も) 気持ちだけはしっかりするため、街宣しておく。「覚悟しとけよ」という意味で。

## 6. 結語に代えて

「極右」という言葉には、(メインストリームの)「保守」よりも「右」であるという含意がある<sup>2)</sup>。だが、そうした「極右」の主張に共鳴するのは、元々極右的なイデオロギーを持っていた者ではなく、政治不信や相対的剥奪

---

2) どのような側面で「右」であるか一様ではないが、Mudde (2007) は「ナショナリズム」と「排外主義」を共通する要素としている。



感、不安感のはけ口を求める層であるという見方は根強く存在する。日本においても、ナショナリズムや排外主義を剥奪や不安といった用語で捉えるものが多いが、筆者自身はそれに懐疑的である。

O氏は、学生運動が身近だった時代に育ち、マルクス主義にも接したが、それは自らの考えに合わない、として若い時から保守を自認していた。筆者が聞き取りした在特会や「行動する保守」のメンバーでは、このような「元々保守」という者が多数派だった(樋口 2012f)。もちろん、保守的な者がすべて極右になるわけではないし、ましてや「在日特権」を真に受けて排外主義運動に馳せ参じる現実には、「保守」という要素だけでは説明されえない。O氏の場合、右派の市民活動という受け皿の存在によって自らの行動を説明しており、「保守的」というプッシュ要因に加えて「右派市民活動」というプル要因が必要であることを示唆する。

また、O氏は在特会での活動を周囲に公にしており、それゆえに失われた人間関係もあるという。その分だけ在特会での付き合いが増加しており、イデオロギー的な純化が進むものともいえる。実際、政治や「在日特権」に関する話を存分にできる相手との付き合いが、活動家達に心地よさをもたらすことは、他のメンバーに対する聞き取りでも言及されている(樋口 2012d)。Blee (2002)の調査では、活動の結果としてそれまで持っていた人間関係や仕事を失う白人至上主義の活動家が登場する。O氏は、そのうち人間関係の一部だけを失った格好となるが、チーム関西のメンバーのように職を失う者も出現した。della Porta (1995)は、運動を続けているうちに集団内部で社会化されることが、運動の過激化に結びつくことを指摘しているが、それが部分的には現実化しているともいえる。

#### 文献

Blee, Kathleen M., 2002, *Inside Organized Racism: Women in the Hate Movement*, Berkeley: University of California Press.

della Porta, Donatella, 1995, *Social Movements, Political Violence, and the State: A Comparative Analysis of Italy and Germany*, Cambridge: Cambridge University

Press.

- 樋口直人, 2001, 「外国人参政権論の日本的構図——市民権論からのアプローチ」NIRA シティズンシップ研究会編『多文化社会の選択——「シティズンシップ」の視点から』日本経済評論社.
- , 2011, 「東アジア地政学と外国人参政権——日本版デニズンシップをめぐるアボリア」『社会志林』57 巻4 号.
- , 2012a, 「在特会の論理(1)～(7)」『徳島大学社会科学研究所』25 号.
- , 2012b, 「在特会の論理(8)～(9)」『徳島大学地域科学研究』1 号.
- , 2012c, 「『行動する保守』の論理(1)～(3)」『徳島大学地域科学研究』1 号.
- , 2012d, 「在特会の論理(10)」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』8 号.
- , 2012e, 「行動する保守の論理(4)」『茨城大学地域総合研究所年報』45 号.
- , 2012f, 「排外主義運動のミクロ動員過程——なぜ在特会は動員に成功したのか」『アジア太平洋レビュー』9 号.
- 松谷満・高木竜輔・丸山真央・樋口直人, 2006, 「日本版極右はいかにして受容されるのか——石原慎太郎・東京都知事の支持基盤をめぐって」『アジア太平洋レビュー』3 号.
- Mudde, Cas, 2007, *Populist Radical Right Parties in Europe*, Cambridge: Cambridge University Press.

(付記) 科学研究費補助金によるプロジェクトの一部として本稿のもととなる調査はなされており、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。記して感謝したい。